

中村診療所・中村歯科診療所・中出張所
新庁舎候補地選定業務

報 告 書

令和 4 年 3 月

隠 岐 の 島 町



株式会社 日本海技術コンサルタンツ

まえがき

本業務は、中村診療所、中村歯科診療、中出張所の複合施設の建物建設地を決定するための調査を行う業務である。

現時点で隠岐の島町中村地内の国道 485 号を挟んだ①西側と②東側の 2 箇所が候補地として指定されている。

候補地面積は①西側が約 2,700m²、②東側が約 4,700m² である。

候補地の土地利用状況や規制区域等の確認のため現地調査および資料調査を行い、候補地の選定について報告書として取りまとめを行うものである。

業務遂行にあたっては「本業務概要書」に基づき作業を進めたが、要所では発注者担当監督員と協議を行い、内容の確認を行った。



業務位置全景写真

2-1 机上調査

2-1-1 地形概要

業務位置は隠岐郡隠岐の島町中村地内であり、現在の隠岐の島町中出張所から南西に約 0.3km に位置する。

候補地を挟んだ南北に国道 485 号が走り、東側は中村川が南から北へ流下している。西側には標高 167m、南側には 106m を山頂とする急峻な山腹斜面が存在する。

候補地は添付の航空写真に示す通り、国道と西側の山腹斜面の間(①西側候補地)と中村川と国道の間(②東側候補地)の 2 箇所である。

候補地は農地として利用されていた土地であるが、現在は空地となっている。



Google earth より引用加筆

2-1-2 地質概要

『西郷地域の地質』（産業技術総合研究所）によると候補地周辺には、沖積堆積物の礫、砂および泥(V)が分布しており、北東から南西にかけて粗面岩(It)、泥岩および凝灰質泥岩(Kmm)が分布している。また、現地での直接調査として①西側候補地の南側において防火水槽の設置に伴い調査ボーリングが実施されている。調査結果では、2.00m以深から砂が確認されている。

これは上記の礫、砂および泥(V)に一致する。

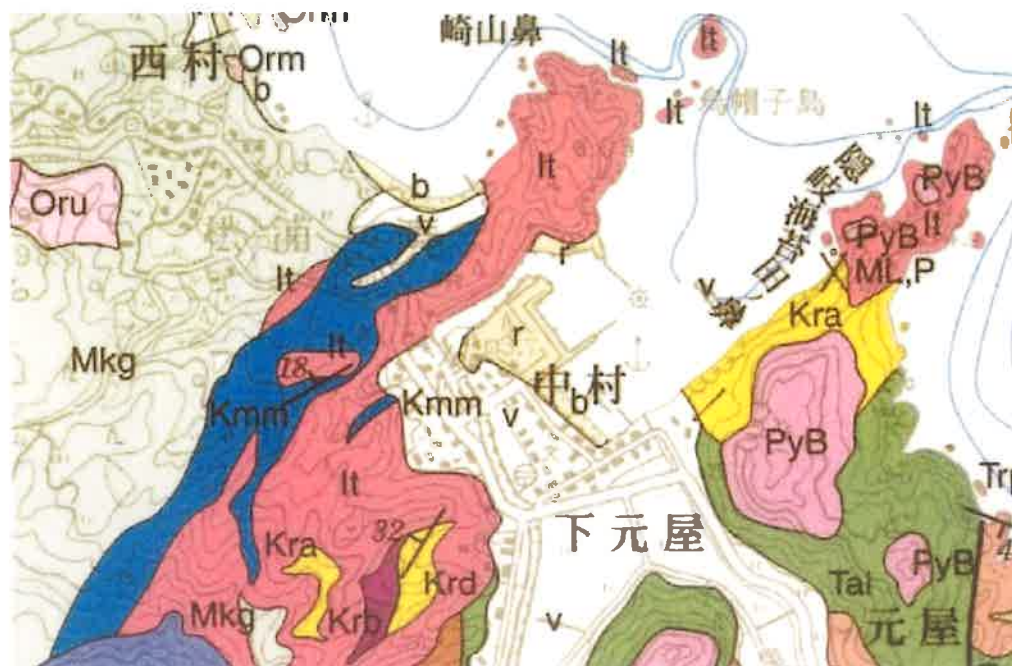


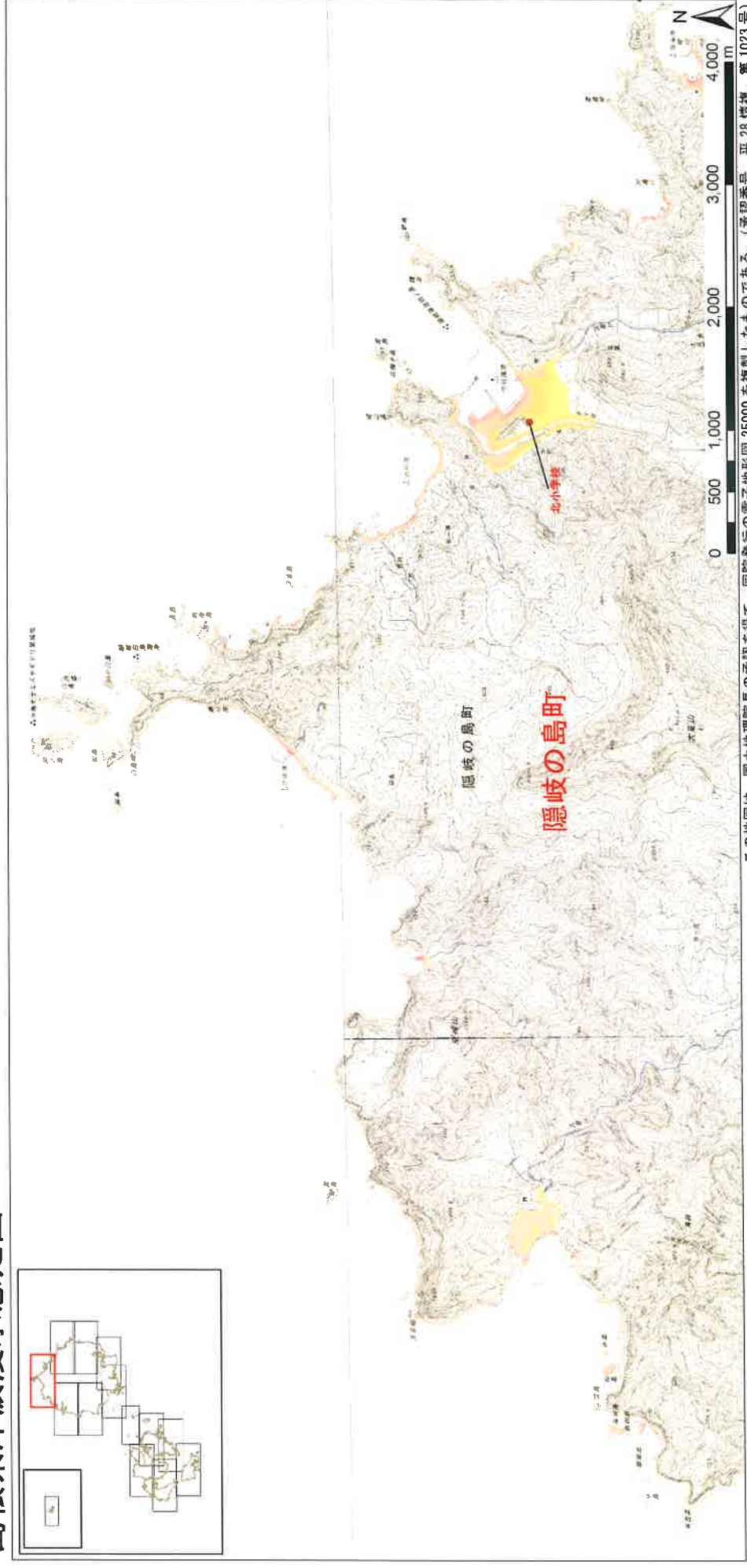
図. 2-1-2-1 候補地周辺の地質図

(出典：産業技術総合研究所『5万分の1地質図幅西郷(H22.2)』)

凡例

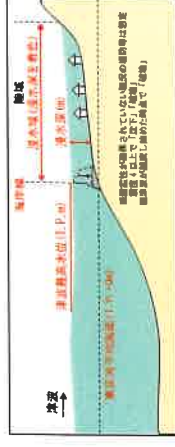
Reclaimed land		
Talus deposits	t	礫、砂及び泥 Gravel, sand and mud
Alluvium deposits	v	礫、砂及び泥 Gravel, sand and mud
Beach deposits	b	礫及び砂 Gravel and sand

圖定水漫津縣根



【留意事項】

- ☐ 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波（L2津波）が悪条件下において発生した場合に想定される、浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
 - ☐ 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
 - ☐ 「津波浸水想定」は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
 - ☐ 「最大クラスの津波（L2津波）」は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものです。これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
 - ☐ 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
 - ☐ 浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、遅れて来襲する第二波以降に最大となる場所もあります。
 - ☐ 砂浜や河川内の州などは常に形や標高が変動するため、実際の浸水域、浸水深も変化します。
 - ☐ 今後、数値の精査や表記の改善等により、修正の可能性ががあります。



深水

5.0m以上	10.0m未満
3.0m以上	5.0m未満
1.0m以上	3.0m未満
0.5m以上	1.0m未満
0.3m以上	0.5m未満
	0.3m未満

作成者：島根県

作成月日：平成29年3月

2-1-4 既存資料調査

■地質調査結果

「2-1-2 地形概要」で示したとおり候補地近傍において防火水槽の設置に伴う調査ボーリングが実施されている。

業務名：令和2年度 中村地区防火水槽工事 測量設計業務委託
以下「R2 防火水槽設計報告書」という。

既存の報告書より候補地周辺の地盤性状を把握する。

調査結果より当該地の土質は中粒砂主体の沖積堆積物であり、部分的に細粒砂層の分布が確認される。また平均N値は7であり、候補地①②は中村川沿いに広がる平坦地であることから、土層としては大きな違いはないものと推定できる。
建物の基礎地盤とする場合、支持力不足が懸念されるため、詳細計画では建築物計画を考慮したボーリング調査を実施して対策を講じるものとする。

次ページに地質断面図を示す。

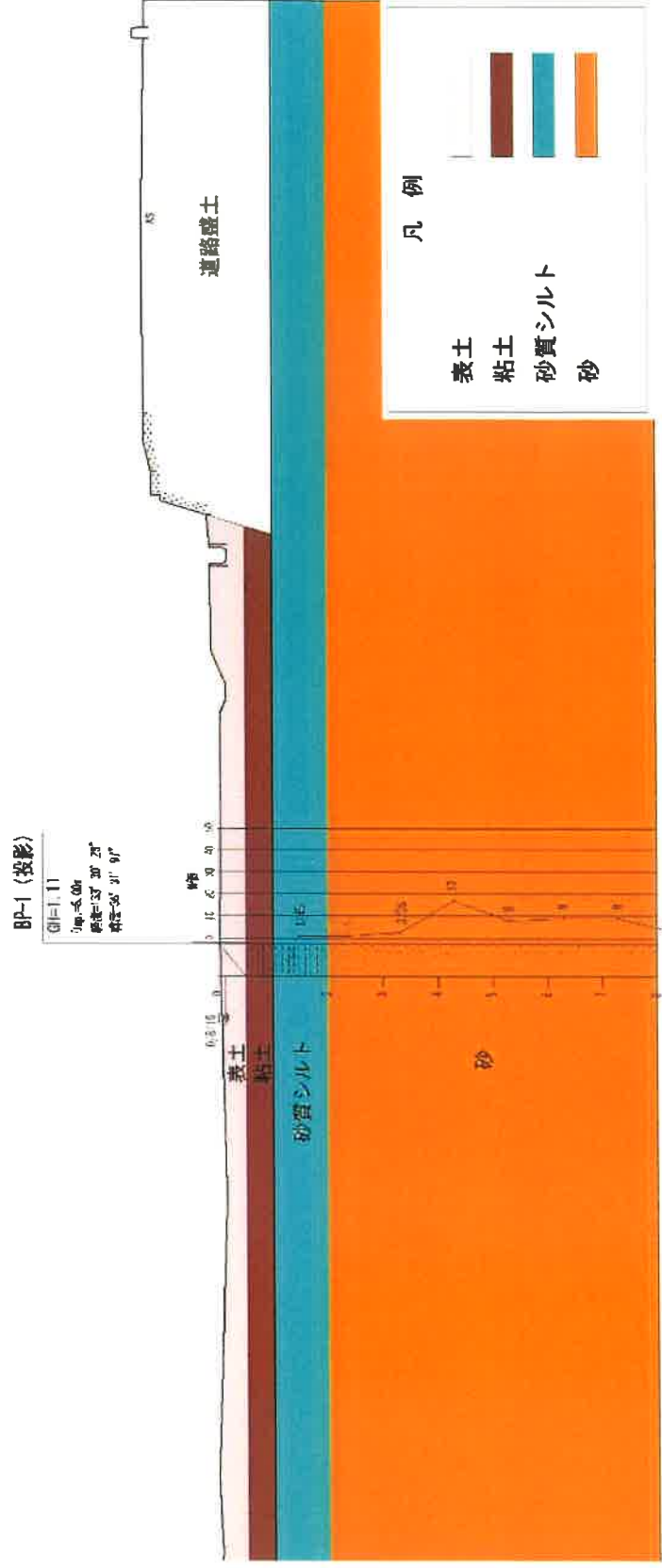


図.2-1-4-1 地質断面図「R2 防火水槽設計報告書」より抜粋資料

※砂層については地震時の液状化の検討が必要になる。

2-2 現地踏査

候補地周辺の現地踏査を行い、資料を取りまとめた。

踏査結果の概要を以下に示す。また、次頁に踏査写真位置図および踏査写真を示す。

2-2-1 西側山地斜面

【現地踏査結果概要】

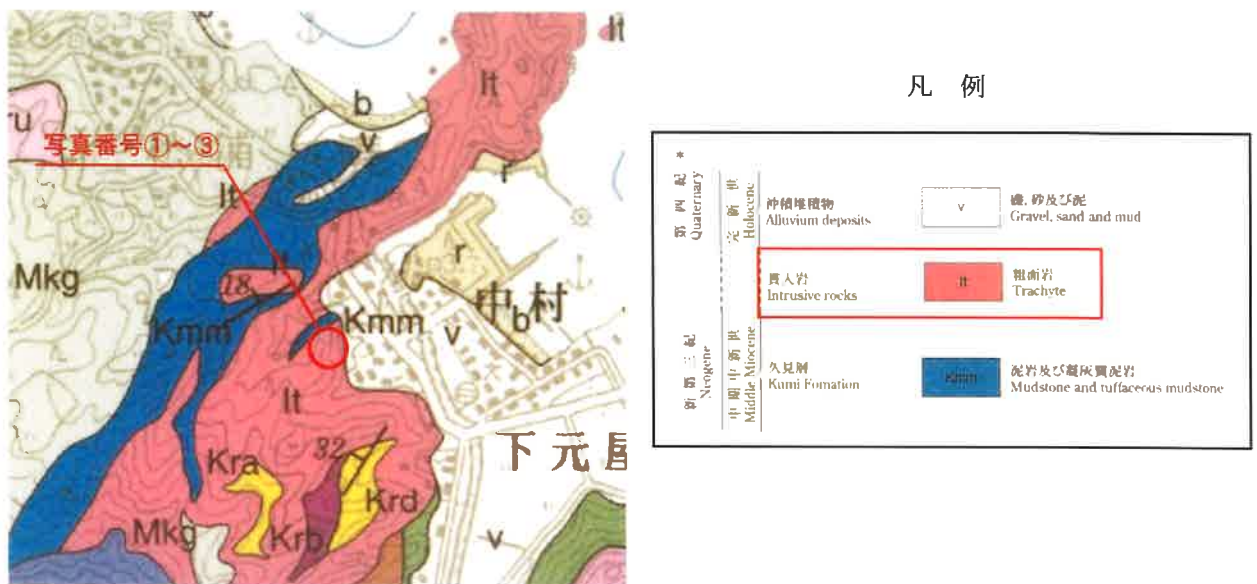


図. 2-2-1-1 調査地周辺の地質図

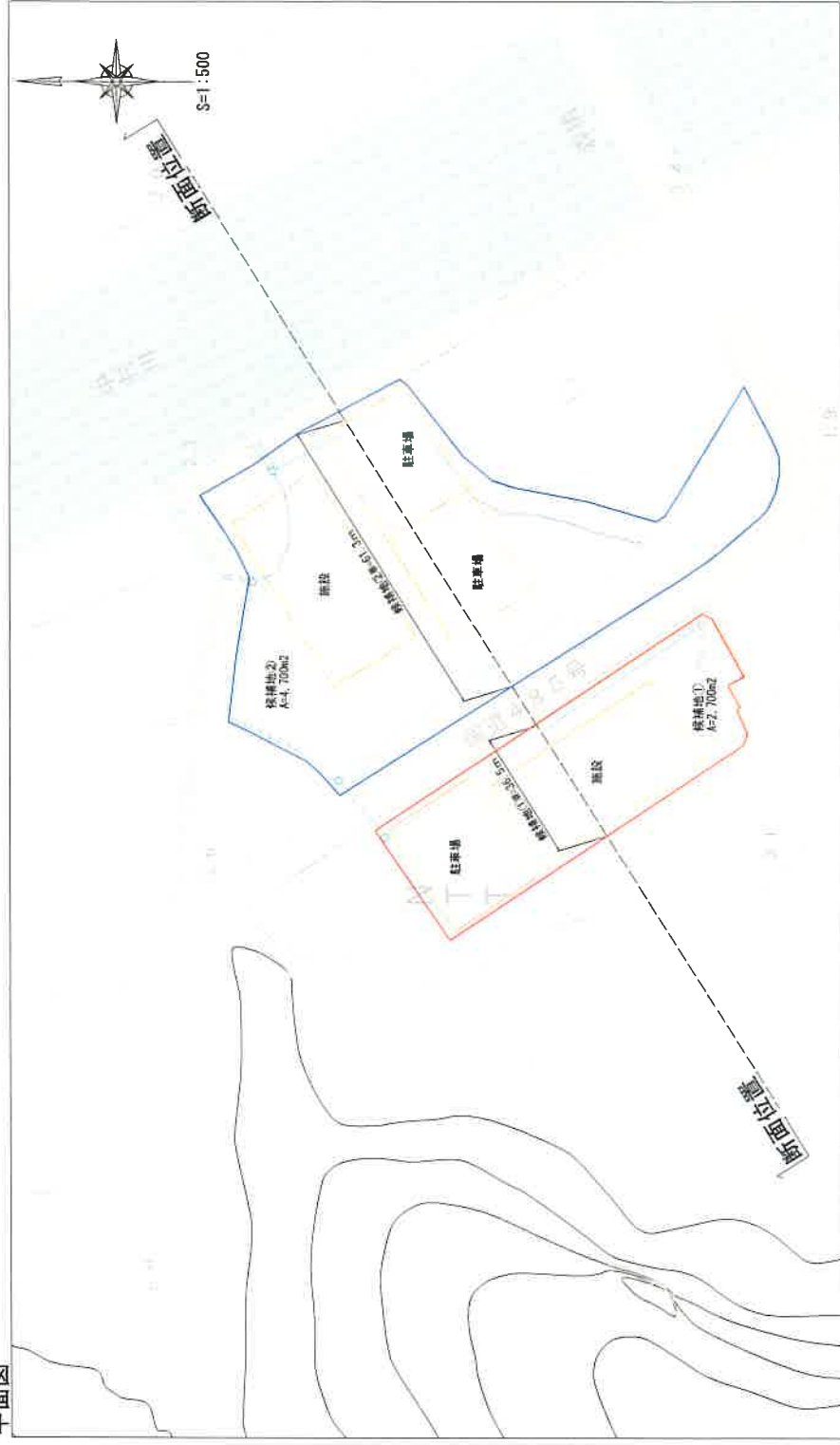
(出典：産業技術総合研究所『5万分の1地質図幅西郷(H22.2)』)

- ・粗面岩露頭が認められる（現地踏査平面図候補地周辺状況①写真 1, 2, 3, 4）
- ・候補地より、南西方向および北西方向には砂防堰堤が存在する。堰堤背面および水路部に顕著な土砂の堆積は認められない。（写真 6～11）

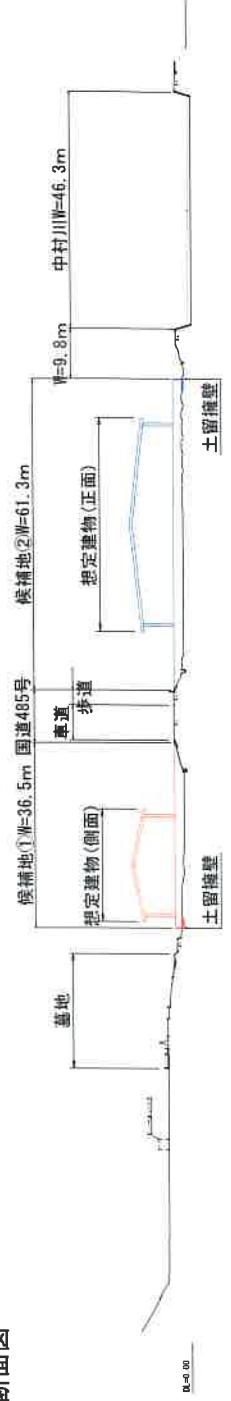
現地調査の結果、候補地の西側斜面には粗面岩露頭が認められる。図 2-4-1 調査地周辺の地質図で示すとおり粗面岩が周辺の基盤岩であると推察される。粗面岩は亀裂間が 10cm 程度で発達、斜面上部はオーバーハング状（写真 3）をしており、落石の恐れがあるが、粗面岩露頭から候補地までは比較的平坦地（写真 5）であり、最も近傍の箇所でも 16m 程度の離隔があり未対策斜面であるが候補地への影響は低いと判断できる。

参考図

平面図

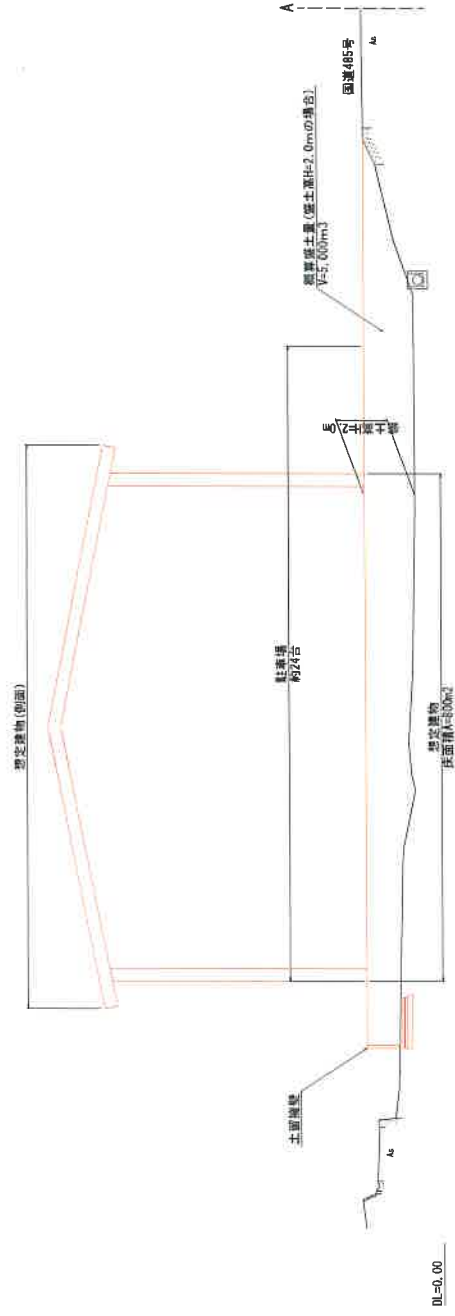


横断面図



横断面図
S=1:100

候補地①



候補地②

